

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1272300144		
法人名	有限会社長寿松		
事業所名	グループホーム時の村12号館		
所在地	千葉県勝浦市上植野925-1		
自己評価作成日	令和6年2月21日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPO共生		
所在地	習志野市東習志野3-11-15		
訪問調査日	令和6年3月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

田園風景に囲まれ、自然あふれる環境の中、四季折々の制作活動やおやつ作り等を通し、生活の活性化を図っています。また、近隣への散歩やドライブに出掛け、季節ごとの催し事や、四季に応じた外出支援を行っています。家庭的な雰囲気の中、生活リハビリとして、家事等を職員と一緒にいき、自立に向けた笑顔あふれる温もりのある暮らしを支援させていただきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所では、職員全員が共通の理念として「利用者の尊厳を守る」ことを掲げている。利用者一人ひとりの生きてきたヒストリーを傾聴し、記憶の片隅にある海の中に立つ赤い鳥居やお墓のある場所の断片的な記憶も、職員が調査し、現地と一緒に確認に出かけるなど、利用者一人ひとりの大切な思いを尊重している。コロナに感染した利用者がいた夏には、他の利用者への感染を防ぐため、職員全員が防護服・ゴーグル・キャップ・グローブを着用し、汗だくになりながら介護サービスを行った。災害時の断水に備えて、各トイレ内、洗面所には備蓄水を備えるなど、日々の介護サービスの実務の中での努力が見られる。医療体制面では、全利用者が訪問契約診療により、月2回の診療を受け、毎週訪問看護師が来て、医療体制は整っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の運営理念を玄関に掲示し、理念の実践に向け取り組んでいる。また、ホーム独自の理念を掲げ、職員全員意識を高め、業務にあたっている。	利用者の尊厳を大切に、職員全員が利用者を人生の大先輩として意識している。事業所の理念は、毎朝全員が唱和し、その意味を浸透させている。職員は話し合いを通じて、「ちょっと待って」を「今行きます」に言い換えるなど、利用者の立場に立ったサービスを提供している	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に加入をして月に2回、区長から広報誌が届く。その際、情報交換を行っている。秋祭りは地域役員の計らいによりホームまで出向いて下さり、参加をし、交流している。現在、コロナ禍により、中止している。	地域の区長は、毎月1回地域の広報誌を事業所に持参し、変わったことがないかを気遣っている。また、災害時に使う貯水池の場所も教えてもらっている。地域の「秋祭り」には事業所の敷地内で神輿の休憩所として貢献している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の交流を深め、認知症の人の理解や支援の方法を発信していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1度、市役所の高齢者支援課、地域包括、民生委員、自治会長、家族と共に入居者の情報やサービスの実践等について話し合い、意見交換を行い、サービス向上に活かしている。	二か月ごとに、市の職員、地域の区長、地域包括支援センターの職員、利用者家族が参加して運営推進会議をリアル開催している。議題は事業所の活動報告、入居状況、職員研修報告などで、地域包括支援センターの職員からは入居状況の確認などが行われている。出席できないご家族には資料を送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	市の担当者とは、事業に関する相談等連絡を密に取っている。現在コロナウイルス感染予防に関する情報提供を多くもらっている。	市の職員は、必ず運営推進会議に担当者が変わっても出席している。利用者のコロナ感染時には、市の職員から励ましの手紙を頂いている。市からは、緊急入所の相談を受けることもある。運営推進会議への毎回の出席や、日ごろの様々な相談を行うなど、市との間には緊密な関係がある	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	どんな行為が身体拘束に当たるかを、参考資料「身体拘束廃上に関する指針」を用いて、職員の会議で話し合っている。一人ひとりの理解を深め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会は3か月ごとに開催され、職員間で繰り返し学習が行われている。利用者一人ひとりの身体能力に合わせて、自立に向けた見守りを心掛けている。日頃から、職員間でスピーチロックに関する意識付けを行い、「ちょっと待って」の命令口調ではなく、「今行きます」の肯定的な言い回しをすることを全員で決めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様、虐待についても職員の会議で話し合い、資料を用い職員研修を行い、職員の言動について、虐待に当たらないか注意を払い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	参考資料を用い、社内研修を行い、レポートにて理解の確認を行い、活用できる様にする。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定の時には、利用者や家族に十分な説明を行い、理解と納得を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族等の意見や要望については、外部の相談として勝浦市役所高齢者支援課、内部には苦情・相談窓口を設置している。意見・要望については、運営に反映させるよう努めている。	毎月の請求書送付時に、「時の村だより」で事業所内のイベントや行事の案内、担当職員からの利用者一人ひとりの生活の様子などを手紙で伝えている。運営推進会議や表立った意見聴取では意見や要望は出てこないため、今後も積極的に情報を発信し、家族の不安を取り除く努力を続けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する職員の意見や提案は、毎月本社から出向き、職員を交えての会議を行っている。また、毎月、第4水曜日に本社にて館長会議を行っている。	職員の意見は、毎月1回開催される全体会議で本社の取締役や統括マネージャーと共有され、運営に反映されている。夜間の頻尿に悩む利用者のケアについても、職員の提案で昼間に足を上げて休む時間を設けたところ、症状が改善された。職員間では、日ごろから意見交換が自由に行われる風土がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の希望の時間帯に働けるような取り組みや、職場環境の整備などを行い、なるべく長く働いてもらえるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会を確保し、職員の質の向上を目指し、研修に参加できる環境を整えるよう努めている。現在はコロナ禍により、ズームでの研修を行い、スキルアップに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型外房連絡協議会に参加し、情報・意見交換などを行っている。他の施設の優れた点を取り入れて、質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が訴えていること、困っていること、要望等に耳を傾け、表情や仕草等から汲み取り、望んでいることを把握し、安心できる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安や要望を把握して、支援出来る様心掛け、信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族が望んでいる支援を見極め、他のサービスも視野に入れた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事全般やその他について、利用者の知識や経験を教わりながら、支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係は、ほぼ築けている。職員、家族共に本人を支えていく関係が築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の馴染みの人との面会など、関係が途切れないようにしている。日々の会話の中から思い出の場所等を把握し、外出支援を行っている。	利用者との語らいから出てくる昔の記憶は尊重されている。海の中に立つ赤い鳥居の話が出た際には、職員がその場所を見つけ、利用者と一緒に訪れた。思い出せないお墓の場所も、お寺の住職と一緒に探し当てた。利用者一人ひとりのヒストリーは尊重されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション活動を通し、利用者同士で会話をしたり、歌を歌ったりして関わりを持ち、職員がそれを支えるような支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用契約終了後も、本人や家族に気軽に相談してもらえるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時に本人、家族から意向や希望等を伺い、日常的にコミュニケーションを図り、表情や言葉から意向や希望等の把握に努めている。	入所時の思いや意向の把握は、利用者及びその家族によって様々なパターンがあり対応が難しい。今回、家庭内暴力により行政側からの要請で入所を依頼され、受け入れを行なった。利用者本人は喜びの表情であったが、そのご家族の要望、発言は一方的なもので、対応に苦慮した。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートやアセスメント表に、入居前の暮らし、趣味、生い立ちを記入し、把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方や心身状態は、介護記録に記入し、現状の把握を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の要望や希望、職員の意見などを、ケアマネ同席でカンファレンスを実施し、計画を立てている。	管理者、ケアマネジャー、家族を交え、月1回ケア会議を行なっている。必要があれば主治医のドクターや看護師に入って頂く事もあるが、訪問診療体制に替わって、事業内ではケアに集中出来、サービスの質の向上を図る事が出来ている。	利用者本人の健康状態については、月1回のケア会議で情報共有が図られて医療機関にお任せ状態にならないよう、常に情報共有を図る事が望まれます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践を各自のケース記録に記入し、それを参考に介護計画に活かしている。毎月ケア会議を行い、介護計画を見直し、実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族との外食、外出支援を行い、柔軟な支援やサービスに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努め、安全で豊かな暮らしが出来るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在、東条病院の往診に切り替わりをする為、調整中。	主治医は鴨川の東条病院で利用者個人単位で家族が訪問診療契約を行って頂いていて、第二、第四火曜日に往診に来て頂いている。内科専門医のため、他科にかからなければならない場合は、ご家族・職員にて対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤の看護師が週一回のペースで健康管理を行っている。緊急時は看護師に連絡し、指示・対応を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換、相談に努め、良い関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	その人らしい最後を迎えられるよう、家族、かかりつけ医、看護師、職員で連携を取り、事業所で出来ることを共有し、支援している。	今年度はお一人の利用者にターミナルケアを行ってきた。終末期における急変時対応については、入所時に家族との確認を行っているが、いざというときはその時の契約内容に拘ることなく、ご家族に寄り添った対応を行う事を心掛けている。現在は、週1回看護師が訪問してくれて、職員の指導に当たってくれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	「事故・緊急時対応マニュアル」に沿って、対応を行っている。また、事故が発生してしまった場合の、事故等再発防止の対策も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防隊員指導の下、日中・夜間と想定を変え、年2回業者の点検時に合わせ、避難訓練を行い、職員個々の防災意識を高めている。	年2回(5月・11月)に日中及び夜間想定で訓練を行っているが、最近房総半島沖を震源地とした地震が頻発していることもあり、今年度は地震を想定した訓練も取り入れている。本部では、避難に関するハザードマップは各事業所で作成するよう指導されているため、地域をよくご存じの区長にもご協力を仰ぎながらこれから作成して行くつもりである。	行政側からは福祉施設に対し3月までにBCP計画を作成するように指導されているが、自然災害、感染症を対象としたBCP対策は、単独の事業所で作成する事は難しく、地域の事業所や運営法人も巻き込んで立てていくことが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者と職員という関係より、家族の一員であるという意識で支援しているが、一人ひとりの人格を尊重した対応を行っている。	日常ケアにおける、排泄支援、入浴支援などにおいては利用者本人へのあからさまなケアが行われる事の無いように注意を行っている。基本的に普段の会話の際、個人情報やプライバシーに触れない事を徹底しているが、職員には常日頃からそういった意識を継続的に持ち続けるよう指導を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症の度合いによって異なる場合もあるが、本人の意思や希望を表せるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の日程はあるが、一人ひとりの体調やペースを大切にし、希望にそえるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問カットを行い、本人の希望やその人らしい支援をしている。衣類は、職員と一緒に選び、本人の希望に沿うよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手伝いの出来る利用者は、積極的に参加してもらい、職員と一緒に食事作りや片付けを行っている。	配膳や後片付けのお手伝い出来る方が2名いることで、交代で手伝って頂いている。食材は業者方の調達を行っていることから、メニュー変更はなかなか難しいが、盛り付けの工夫や、刻み、とろみを加えることで食べやすくして差し上げる様にしている。皆さん残さずに完食されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を、個人記録に記入し把握している。一人ひとりの状態や習慣に応じた支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けで歯磨きを行い、できない人は一部介助。月一回の訪問歯科の受診で、口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握して定期的に誘導を行い、トイレでの自立排泄の支援を行っている。	介護度1, 3の方を除き日中の排泄記録から声掛け、トイレ誘導。夜間、利用者4名はオムツ確認、その他の方は定期的にトイレ誘導を行っている。日中、対策をする事により夜間の失禁が減少した。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の内容や、食物繊維、乳製品、水分摂取量に気を付けている。毎日ラジオ体操を実施し、歩行や屈伸運動を一部に実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間、シャワー浴、清拭など、本人の希望を取り入れ、拒否する人には声掛けのタイミングや、工夫を行い、入浴してもらえるよう努めている。	利用者は女性8名、男性1名で、冬場は週2回の入浴を実施している。入浴介助は職員ローテーションにより、問題なく対応が出来る。この冬は特に気温の低い日もあり、脱衣場にカーテンを取り付け、暖を取れる環境整備を行った。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室のエアコンによって室内の温度設定を行い、定期的にシーツ交換を行い、天気の良い日には布団を天日干しし、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	認知症の度合いによって、使用している薬について理解できる人と、できない人がいる。飲み忘れがないよう、服薬の支援や症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日行っているラジオ体操や日々の家事等の役割、毎月の行事等を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣への散歩やドライブ、季節ごとの催しや四季に応じた場所への外出支援を行っている。	当事業所は年間行事予定に対して、コロナ禍であっても感染予防対策をしっかりと行った上で実施する事になっている。特に外出支援については、初詣、川津桜のお花見、芸術文化ホールのひなまつり見学と、しっかりと実施してきた。利用者の体力維持のため、屋内でのイベント実施も含めて、十分に配慮している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で金銭を管理するのが難しい人が多いので、家族の協力により、ホームで金銭管理は行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様にご本人の様子を電話で報告時に、ご本人に電話を代わり、お話出来るよう支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間に、季節の飾り物を飾り、季節感を採り入れている。目の付く場所に思い出の写真等を掲示し、明るく居心地の良い空間作りの工夫に努めている。	利用者の皆さんに季節を感じて頂く為に、貼り絵や飾分、ひなまつりと行事を組み込んだイベントを企画実施している。リビングではYouTubeを見ながら体操をしたり、歌や、掲示物で季節を感じて頂く事が出来る。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では席の配置を考え、気の合った利用者同士が思い思いに過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものを持ち込み、利用者が安心して過ごせるように配慮している。共用空間や居室にあるエアコンで空調管理し、居心地よく過ごせるよう努めている。	現在、感染対策を行い、面会をしている。居室は全て畳部屋であり、ご要望により、こたつ、電気毛布などを利用される方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりが本人らしく、自信を持って生活出来るように見守り、自立した生活が送れるよう支援している。		